



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

## 2023 年度 国語科実践報告

メタデータ	<p>言語:</p> <p>出版者: 東京学芸大学附属国際中等教育学校</p> <p>公開日: 2024-04-25</p> <p>キーワード (Ja): ETYP:教育実践</p> <p>キーワード (En):</p> <p>作成者: 浅井, 悦代, 宇佐見, 尚子, 杉本, 紀子, 高松, 美紀, 西村, 諭, 廣瀬, 充, 山根, 正博</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属: 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校</p>
URL	<p><a href="http://hdl.handle.net/2309/0002000383">http://hdl.handle.net/2309/0002000383</a></p>

## 2023 年度 国語科実践報告

### Practical Report of Japanese Language Division for 2023

国語科 浅井 悦代  
宇佐見 尚子  
杉本 紀子  
高松 美紀  
西村 諭  
廣瀬 充  
山根 正博

国語科の2023年度の取り組みとして、表に示したように、学年ごとに概念を主軸とした単元設計に基づいて実践した。MYPにおいてはKey ConceptとRelated Concept、Global Contextまたそれらに基づいた探究の問いを生徒と共有して授業を進めた。他教科との連携を図った実践も行った。

#### 1章 教科としての取り組み

##### 1節 はじめに

新学習指導要領の公示を受け、本校では「国際バカロレア(以下、IB)の趣旨に基づくカリキュラム・マネジメント」の実践的研究を行っている。カリキュラム・マネジメントの中では、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、教育内容を組織的に配列することが求められている。

本校では一昨年度より「研究グループによる授業研究」を実施しており、今年度は「探究の問いが育む概念的理解 ―IBの趣旨を活かした授業開発とその普及―」を主題に研究を進めてきた(その具体的な実践内容については、各研究グループの報告を参照されたい)。国語科という教科としての研究グループは設けられなかったが、普段の授業においても教科横断的な視点を取り入れたり、学習の転移を目指した単元を設計したりしながら、研究主題へとアプローチした。次節でその一例を示す。

##### 2節 2023年度国語科実践記録(2023年1月末現在)

国語科では毎年本紀要に当該年度の実践(1学期までまたは2学期まで)を一覧として掲げてきた。本年も1月末までの実践単元一覧表を後掲する。1学年～4学年まではMYPに基づくため、MYPにおいて単元設計に必要とされている、Key concept(重要概念)、Global context、Statement of inquiry(探究テーマ)と使用教材を記載した。5学年・6学年においてもできるかぎりMYPの重要な要素を踏まえて単元設計を行っている。

国際中等教育研究

学年	科目	単元	Key concept (重要概念)	Global context	Statement of inquiry (探究テーマ)	使用した教材とその著者 (教科書教材には下線) (副教材・参考資料として使用したものも含む)
1 (中1)	国語	表現とは何か?	形式	個人的表現と文化的表現	文章は、「何が書いてあるか」(内容)だけでなく、「どう書いてあるか」(形式)も大きな意味を持つ。	谷川俊太郎『朝のリレー』、杉みき子『それだけでいい』、寺山修司『一ばんみじかい抒情詩』「ハート型の思い出」『何にでも値段をつける吉道具屋のおじさんの詩』、吉野弘『草』「花と苑と死」(いずれも詩)
		言葉とは何か?	コミュニケーション	個人的表現と文化的表現	誰が、何のために、どのような場(文脈)で書くかによって、読み手が期待するものは異なる。	向田邦子『字のない葉書』(随筆)
		自身の存在を支えるもの	アイデンティティ	アイデンティティと関係性	人はどのようなときに自分の存在を確認できるか?	今江祥智『塵』、別役実『空中ブランコ乗りのキキ』
		分かりやすく説明する	つながり	個人的表現と文化的表現	意味のまとまりやその結びつきを組織することが、分かりやすい構成を形作る。 スタイルの違い(書き言葉と話し言葉、など)は、ふさわしい構成のあり方に影響する。	上田一生『ベンゼンの防染着』、大隅清治『クジラの飲み水』、渡辺武信『玄関扉』、高階秀爾『日本人にとって美しさとは何か』(いずれも説明文)
		古典と現代のつながり	時間、場所、空間	空間的・時間的位置づけ	古典の言葉は現代の言葉とどのように異なり、どのようにつながっているのか?	『竹取物語』
「少年」という時期について	変化	アイデンティティと関係性	他者との関係性の中で、個人はどのように影響を受けていくだろうか?	ヘルマン・ヘッセ『少年の日の思い出』		
2 (中2)	国語	短歌を読む、短歌を詠もう	創造性	アイデンティティと関係性	作者の表現したいものによって、選ぶべき言葉は必然的に決まる。	俵万智『短歌の世界』、『短歌十種』、木下龍也、俵万智、栗木京子、寺山修司、穂村弘、永田紅、干場しほり、俵万智『考える短歌』、木下龍也『天才による凡人のための短歌教室』、東直子『短歌の不思議』、歌会、笹井宏之、山田航、正岡子規、与謝野晶子、石川啄木、斎藤茂吉
		新聞投稿にチャレンジ!	コミュニケーション	個人的表現と文化的表現	誰が、何のために、どのような場(文脈)で書くかによって、読み手が期待するものは異なる。	朝日新聞「声」・毎日新聞「みんなの広場」・読売新聞「気流」・東京新聞「発言」などの投稿記事
		根拠を吟味する	論理	個人的表現と文化的表現	意見・主張の説得力を高めるためには適切な根拠が必要である。 事実の述べ方によって読み手が受ける印象は変わる。	田中真知『黄金の扇風機』、千住博『サハラ砂漠の茶会』 香西秀信『『正しい言葉』は信じられるか』 橋本淳司『一〇〇年後の水を守る』
		見ぬ世の人の対話	時間、場所、空間	空間的・時間的位置づけ	物事の感じ方考え方について、時代を超えた共通性とその時代の独自性をとらえる。	古文『平家物語』『紙園雑書』『敦盛の最期』、『徒然草』、漢詩『春曉』、『孟浩然の広陵に之くを送る』、『春望』
		語り得ぬものを語る	文化	個人的表現と文化的表現	抽象的な何かを人間はどのように表現できるか?	太宰治『走れメロス』(小説)・シラー『人質』
3 (中3)	国語	物語のリアリティ	創造性	個人的表現と文化的表現	書き手と読み手のコンテクストのすり合わせがフィクションにおけるリアリティを生み出す。	土田英生『強がる画家たち』(戯曲)、はせうちろい『空の匂い』、永井愛『ら抜き蚊の殺意』(戯曲)、平田オリザ『演劇入門』、北村想『高校生のための実践劇作入門』
		ISS日本語・日本文学博物館 一 日本語・日本文学のこれまでとこれから	変化	空間的・時間的位置づけ	言語や文学は、それ自体がもっている要因や社会的な要因によって変化していく。	古典作品、ブッククラブ(現代の作家の小説、近代文学、古典文学)、和歌・短歌(百人一首、近代の短歌、現代短歌)、文法(用言の活用、ら抜き言葉、名詞)、能・戯曲、言語の消滅
		象徴とコミュニケーション	コミュニケーション	個人的表現と文化的表現	象徴は受け手に豊かなメッセージを送ることができる。	井上ひさし『握手』(小説)、石川啄木『一握の砂』
		メディアと社会	ものの見方	科学技術の革新	表現は受け手を操作する。	菅谷明子『情報社会を生きたーメディア・リテラシーー』(評論)、『広告の読み比べ』、照屋一博編『意味がよくわかるようになる言語学 体系機能言語学への招待』新聞記事、広告
		俳句を詠む	ものの見方	個人的表現と文化的表現	俳句を詠むことで、季節の移ろいや身の周りにおける変化に気づく。	夏井いつき『俳句の世界』『俳句十五句』(俳句)
4 (高1)	現代の国語	ジャンルの違いを考える	変化	空間的・時間的位置づけ	ジャンルの共通点や相違点はどのように生み出されているのか?	『近世の短詩一俳句・川柳・狂歌』
		アダプテーションと創造	創造性	空間的・時間的位置づけ	作品同士は影響し合って新たな創造を生む。	松屋芭蕉『奥のほそみち』(紀行)、漢詩
		詩の背景にある時代性とは	ものの見方	空間的・時間的位置づけ	詩には時代性や文化がどのように反映されているのだろうか?	『和歌の世界一万葉集』
		言語と価値観の関係を考える	ものの見方	空間的・時間的位置づけ	言葉は時空を超えて人々のものの見方に影響を与える	『論語』、洪沢栄一『論語と算盤』、大村智、栗山英樹『論語』に関する新聞記事
		小説と社会	変化	アイデンティティと関係性	文学はしばしば作者の社会に対する主張を伝える。	魯迅『故郷』、栗山嘉樹『セメント樽の中の手紙』
4 (高1)	現代の国語	和歌における季節感や価値観	つながり	アイデンティティと関係性	季節の感じ方や価値観は受け継がれているのだろうか?	『和歌の世界一古今和歌集・新古今和歌集』、小野小町(和歌)、壬生忠岑(和歌)、式子内親王(和歌)
		日本語の仕組み	システム	公平性と発展	助詞と助動詞は書き手・話し手の意思が反映される。	文法(助詞・助動詞)
		現代の国語とは(授業びらき)	ものの見方	個人的表現と文化的表現	ものの見方はしばしば言葉によって規定され、また言葉によって拓かれる。	『ねむりのもりのはなし』、『自分の時間で読み継ぐ』(長田弘)、『ふと』と『思わず』(多和田葉子)、『言葉の獣』(漫画)、『妄想国語辞典』
		私たちの世界を作る言葉 1_言葉と言葉以外のつながり	つながり	個人的表現と文化的表現	言葉はほかの要素とつながることで、語意を超えたものを表現し、伝えることが可能になる。	広告(2021年度第70回朝日広告賞 入賞作品)
		私たちの世界を作る言葉 2_言語体系の成立	システム	グローバル化と持続可能性	システムはその形成要素の変化や新たな要素の出現によって変化しうる	新語や流行語を生徒が調査・現代文法の資料(便覧等)
「対話」とは何か	コミュニケーション	アイデンティティと関係性	奥の対話は双方のアイデンティティを尊重するコミュニケーションを可能にする。	『わかりあえないことから』(平田オリザ)・自他の間の「間」(鷲田浩一)・アインシュタインとフロイトの復讐書簡		
実社会と言語_1「規定と様式」	コミュニケーション・形式	アイデンティティと関係性	形式はアイデンティティの認識に作用し、コミュニケーションのあり方を規定する。	履歴書・大学出願要項		
実社会と言語_2「時代と社会」- 論理的な文章の特徴をとらえる	ものの見方	グローバル化と持続可能性	テキストの構造は、筆者の主張やものの見方を読み解く重要な要素となる。	『世界中がハンバーガー』(多木浩二)・『未来を予測する最善の方法』(松田雄馬)		
実社会と言語_3「構成を考えて「話す」-ポッドキャスト創作」	システム・形式	個人的表現と文化的表現	構造化された表現は、発信者の意見や考えをわかりやすく受け手に伝える。	ポッドキャスト例(2世代の「働く」価値観は?入社してすぐ転職サービスに登録もその訳は… NHK就活応援ニュースゼミ)・(『脱成長が作る未来』 未来授業 これからの時代を生み抜くヒントを学ぶ特別授業 Tokyo FM (tfm.co.jp))・『働くことの意味』(内田樹)・『安くておいしい国の限界』(小熊英二)		
実社会と言語_4「構造と文脈」	システム(構造)	公平性と発展	ルールの構造は、歴史的・社会的文脈によって変化し、社会のシステムを根本的に変える可能性がある。	『くまモン』画像利用規約・日本国憲法・教育基本法 *3学期には「ハンセン病問題」関連文法		

東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要

学年	科目	単元	Key concept (重要概念)	Global context	Statement of inquiry (探究テーマ)	使用した教材とその著者 (教科書教材には下線) (副教材・参考資料として使用したものも含む)	
MYP 対象学年	4 (高1)	言語文化	語り手と語られるもの関係を考える	もの見方	個人的表現と文化的表現	テキストのスタイルによって描かれるところは限定され、細部本質がある。	芥川龍之介『羅生門』(小説)、『鈴鹿本今昔物語集』(説話)
			説話とは何か	もの見方	アイデンティティと関係性	古典文学から現代に通じるテーマを読み取る。	『古事談』(説話)
			故事成語から思想を考える	時間、場所、空間	空間的時間的位置付け	漢文の構造に着目し、読み解くことができる。	『論語』(思想)
			小説の表現と社会的背景	システム	公平性と発展	小説の表現と社会的背景の関係性を見いだす。	菊池寛『入れ札』(小説)
			歌物語の構成	文化	グローバル化と持続可能性	和歌に着目し、物語の構成や特徴を捉えることができる。	『伊勢物語』『東下り』(歌物語)
			随筆から何を読み取るか	もの見方	個人的表現と文化的表現	「古人」は一括りにできるものではなく、一人ひとり個性を持った書き手である。	『徒然草』『猫またといふものありて』(随筆)
			編集者の意図を考える	創造性	個人的表現と文化的表現	詩歌の背景にある価値観から人間の創造性を深く理解する。	宮沢賢治『雨ニモマケズ』(自筆手帳)、宮沢賢治『永訣の朝』(第一稿と決定稿)
			物語の普遍性と固有性	創造性	アイデンティティと関係性	物語には普遍性と固有性がある。	『住吉物語』(物語)、シンデレラ(サンドリヨンまたは小さなガラスの靴)
			漢詩の多様性	創造性	個人的表現と文化的表現	型があるからこそ豊かな創造性や多様性が生み出される。	孟浩然『春曉』(漢詩)、白居易『白氏文集』(漢詩)
MYP 対象外の学年	5 (高2)	論理国語	言語と世界				宇野浩二『世界を広げる『批評』の言葉』、平田オリザ『対話の精神』
			社会と人間				山田昌弘『家族化するベトナム』、広井良典『コミュニティから見た日本』
			認識と行動				石黒博『自己をモデル化する知能』、中屋敷均『科学は生まれている』、田中ゆかり『『方言コスプレ』現象』、今井むつみ『スキーマと記憶』
			グローバル化の課題				山崎正和『心に『海』を持って』、青木保『世界はいま、一『多文化世界』の構築』、渡辺晴『グローバル化と文化』
	5 (高2)	文学国語	文学と鑑賞				中島敦『山月記』(小説)、李景亮『入道伝』(伝奇小説)
			歌物語の創作				『伊勢物語』、現代の短歌
			和歌の表現と機能				穂村弘『モードの変遷』、清少納言『枕草子』
			近代とアイデンティティ				夏目漱石『こころ』(小説)、現代日本の開花(評論)
	5 (高2)	古典探究	寓話と表象				井伏鱒二『山嵐魚』(小説)、
			歴史書と表現				『十八史略』『史記』『完壁』、宮城谷昌光『奇異居くべし』
			古典を「探究するには			古典を知らないといふ真には読めない作品がある。	『桃太郎』と近代小説『桃太郎』
			古典の理解を深めるには一時的背景を知って読む			背景についての知識は、解釈を拡大したり、限定したりする。	古文『十訓抄』『宇治拾遺物語』／澤文『故事成語』
	6 (高3)	現代文B	自分という存在をどう確認するか				森鷗外『舞姫』
			言葉はどのように変化していくか				三島由紀夫『小説とは何か』、谷崎潤一郎『春琴抄』
			日常生活の中で小説はどのような役割を果たすか				熊野純彦『ことばへの問い』、内田樹『ことばとは何か』、野家啓一『『対話的相互性』の地平』
			言葉の限界と可能性とは				紫式部『紫式部日記』『土御門部の秋』、紫式部『源氏物語』『葵』『薄雲』
	6 (高3)	古典B	現実と非現実の境界				『老子』『荘子』『韓非子』『墨子』
			政治と表現				『連理秘抄』『御妻花伝』『江敷物語』『三冊子』
表現の形式とその効果						本居常長『玉簾問』『師の詠になづまきこと』、韓愈『師説』	
時代と思想						『源氏物語』『桐壺』『夕顔』	
6 (高3)	古典A (古文)	物語のドラマ性とはどのような点にあるか				『源氏物語』『扇院の怪』『車争ひ』	
		登場人物の心情と語り手の視点はどのような関わりにあるか				『大鏡』『時平と道真』『最後の除日』『鶯宿梅』	
		人物を通して歴史はどのように語られるか				『後醍醐天皇』『讃岐歌』・『源氏物語玉の小櫛』	
		文学・文芸の価値とは・歴史的継承と伝統は文学の斬新さなどのように対立するものか				『史記』『伯夷列伝』	
6 (高3)	古典A (漢文)	正しい生き方とはどのようなものか				荘子・韓非子	
		思想と社会との関わりとは				『史記』『趙世家』	
		娯世について考える				『史記』『趙世家』	
		対比を作る				授業者作成プリント	
6 (高3)	国語表現	展開に変化をつける				授業者作成プリント	
		抽象的な説明と具体例				授業者作成プリント	
		複数の文章の関係をつかむ				授業者作成プリント	
		話す・対話する技術とその分析				授業者作成プリント	

## School Year 2023 Report on Japanese Language Division Practice

### Abstract

As shown in the table, the Japanese Language Division conducted classes based on units designed focusing on a concept for each grade as an initiative for SY2023. In MYP, we carried out classes while sharing key concepts, related concepts, global contexts, and statements of inquiry based on them with students. In addition, we gave practical classes aiming to link with other subjects.